

6日 木曜

ヨハネ



18:28 さて、彼らはイエスをカヤパのもとから総督官邸に連れて行った。明け方のことであった。彼らは、過越の食事が食べられるようにするため、汚れを避けようとして、官邸の中には入らなかった。

18:29 それで、ピラトは外に出て、彼らのところに来て言った。「この人に対して何を告発するのか。」

18:30 彼らは答えた。「この人が悪いことをしていなければ、あなたに引き渡したりはしません。」

18:31 そこで、ピラトは言った。「おまえたちがこの人を引き取り、自分たちの律法にしたがってさばくがよい。」ユダヤ人たちは言った。「私たちはだれも死刑にすることが許されていません。」

18:32 これは、イエスがどのような死に方をするかを示して言われたことばが、成就するためであった。

18:33 そこで、ピラトは再び総督官邸に入り、イエスと呼んで言った。「あなたはユダヤ人の王なのか。」

18:34 イエスは答えられた。「あなたは、そのことを自分で言っているのですか。それともわたしのことを、ほかの人々があなたに話したのですか。」

18:35 ピラトは答えた。「私はユダヤ人なのか。あなたの同胞と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのだ。あなたは何をしたのか。」

18:36 イエスは答えられた。「わたしの国はこの世のものではありません。もしこの世のものであったら、わたしのしもべたちが、わ

たしをユダヤ人に渡さないように戦ったでしょう。しかし、事実、わたしの国はこの世のものではありません。」

18:37 そこで、ピラトはイエスに言った。

「それでは、あなたは王なのか。」イエスは答えられた。「わたしが王であることは、あなたの言うとおりです。わたしは、真理について証しするために生まれ、そのために世に來ました。真理に属する者はみな、わたしの声に従います。」

18:38 ピラトはイエスに言った。「真理とは何なのか。」こう言ってから、再びユダヤ人たちのところに出て行って、彼らに言った。「私はあの人に何の罪も認めない。」

18:39 過越の祭りでは、だれか一人をおまえたちのために釈放する慣わしがある。おまえたちは、ユダヤ人の王を釈放することを望むか。」

18:40 すると、彼らは再び大声をあげて、「その人ではなく、バラバを」と言った。バラバは強盗であった。

ユダヤ人たちがピラトに迫り決断させることによって、死刑とそれに関わるすべての預言が成就しました。神様の計画は、敵の身勝手な行動さえも用いて実現するのです。

ピラトは神の国とこの世の国を混同しました。また保身のためのことなかれ主義によって、神の敵となってしまうました。真理のため、主のためならば、自分の立場を悪くしてでも立ち向かうべきときがあります。自分の行動がピラトのようになっていないか、本当の勇気を持って行動しているか、吟味してみましょう。

バラバは、イエス様が死刑になることによって、自分が助かりました。私たちの姿です。自分は本来は裁かれるべき者であったことを、忘れないで

いましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

